

野田・上吉影・下吉影小

【第2号】

統合準備委員会だより



このたよりは、野田小学校，上吉影小学校，下吉影小学校による統合小学校開校に向けた準備の情報をお届けするものです。今号では、第2回統合準備委員会の様子をお知らせします。

第2回統合準備委員会を開催

9月26日（火）に第2回統合準備委員会を開催しました。今回の委員会では、以下のことについて協議を行いました。

【議事内容】

- (1) 前回の統合準備委員会での意見について
- (2) アンケート調査について



前回の統合準備委員会での意見について

第1回統合準備委員会での意見に関する資料が示され、協議を行いました。概要は以下のとおりです。

○小中一貫教育制度における学校の類型，小中一貫教育の導入状況

小中連携，小中一貫，小中一貫教育制度の関係

小中連携教育	小・中学校段階の教員が互いに情報交換や交流を行うことを通じて、小学校教育から中学校教育への円滑な接続を目指す様々な教育
小中一貫教育	小中連携教育のうち、小・中学校段階の教員が目指す子供像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成し、系統的な教育を目指す教育

小中一貫型小学校・中学校

組織上独立した小学校及び中学校が一貫した教育を施す形態
⇒それぞれの学校に校長，教職員組織

②併設型小学校・中学校 (同一の設置者) 	③連携型小学校・中学校 (異なる設置者)
------------------------------------	------------------------------------

※①②③いずれも施設の形態は問わない。

- ### 義務教育学校のメリット
- ・いわゆる「中一ギャップ」「小中ギャップ」の解消が期待できる。
 - ・小中の交流がこれまで以上に促進される。
 - ・自由なカリキュラム（教育課程）の編成ができる。
 - ・校務の効率化や質の向上につながる。
 - ・PTA組織の一本化が図られる。

- ### 義務教育学校のデメリット
- ・人間関係が固定化されやすい。
 - ・小学校高学年におけるリーダー性育成が阻害されるのではないかと指摘がある。
 - ・転出入する児童生徒への対応が必要になることが想定される。
 - ・教員は、小中両方の教員免許が必要になる。
 - ・校長の職務が過重にならないよう配慮する必要がある場合も考えられる。

市教育委員会としての本地域における小中一貫教育制度の考え方

文科省の行った小中一貫教育の導入状況調査（詳細は市ホームページをご確認ください）や本市の学校統合、小中一貫教育の流れ、施設面での諸条件を勘案すると、義務教育学校として開校を目指す方が、特色ある教育活動の展開が可能となり、小川北中学校区の子供たちにとって、よりメリットがある。

○主な意見

- ・義務教育学校となり、自由な教育課程を編成できるようになった場合、高等学校進学の際に合わせた教育課程を学校で十分にできるのではないかなと思う。是非とも採用していただきたい。
- ・野田小学校は自衛隊関係のお子さんが多く、転出入が激しい。転入し、以前と違うカリキュラムを受け、転出していくことについて、どういった考えを持っているだろうか。
⇒[事務局]児童生徒の戸惑い等があることは予想される課題。その対応が必要ということをあらかじめ認識してスタートすることになってくるのではないかなと思う。
- ・生徒指導や学力の向上等については、職員のマンパワーをどれだけかけるかにかかってくるかなと思う。義務教育学校は非常に柔軟性があることや、臨機応変に対応できるなど、メリットが大きいのではないかな、効果も期待できるのではないかなと思う。
- ・ただ単に先生のスキルアップになる、小中学校両方の免許状が必要ということではなく、100人いれば100人が先生として、きちんとした仕事ができるような体制を作った方が良いのではないかなと思う。
- ・小学校向きの先生や中学校向きの先生もいる。義務教育学校となれば、教員を9学年で自由に配置することが可能となるので、スキルアップも含め、その職業を続けていくことにプラスの面が多いのではないかなと思う。

統合準備委員会の意見

現在の小川北中学校に統合小学校を一体的に併設し、義務教育学校とすることが望ましい。

○小川北中学校敷地に小学校を建設した場合の面積について

児童生徒数	普通学級数	敷地面積	1人あたり敷地面積	グラウンド面積	1人あたりグラウンド面積
570人	18学級	48,120㎡	84.4㎡	26,103㎡	45.79㎡

全国の小中一貫校として運営している学校と比較しても、敷地面積、グラウンド面積は大きく確保できるものと考えられる。（比較の詳細等は市ホームページをご覧ください）

アンケート調査について

具体的な配置図（校舎や体育館、グラウンドなどの位置や形を図面に明記したもの）の基となる方針（施設整備方針）作成の参考にするためのアンケート調査案が示され、確認を行いました。

- 調査対象** ①保護者（さくら第2保育園、元気っ子幼稚園、小川北中学校区小中学校）
②小川北中学校区小中学校の教職員
③小川北中学校区小中学校の児童生徒（小学3～6年生、中学生）
- 調査期間** 10月中旬を予定（1週間程度）
- 実施方法** 各保育園、幼稚園、小中学校で配布・回収
- 調査結果** 第4回野田・上吉影・下吉影小学校統合準備委員会（11月頃）において発表

※会議の議事録等は、市ホームページで公開しています。

<http://city.omitama.lg.jp/0025/genre1-2-001.html>



今回の統合準備委員会は、千葉県成田市立下総みどり学園の視察を予定しています。視察の様子は次号の統合準備委員会だよりでお知らせします。

発行：野田・上吉影・下吉影小学校統合準備委員会

（事務局）小美玉市教育委員会

施設整備課 学校づくり推進係

〒311-3492 小美玉市小川4-11

電話 0299-48-1111（内線2212・2216・2217）

Eメール shisetsu@city.omitama.lg.jp